

3 学期始業式校長講話要旨

○新年あけましておめでとう

2026年、令和8年が明けました。昨年の年明けの始業式で、「昭和百年」の話をしましたが、今年が昭和の満百年ということで政府を始め様々なイベントが準備されているようです。その百年の区切りではいくつものアニバーサリーがありますが、1926（大正15）年は、テレビ起源百年とも言ってもよいかもしれません。1月にスコットランドの技術者ジョン＝ロジャー＝ベアードが動く物体の映像のテレビジョン送受信を公開実験で世界では初めて成功しました。のちにベアードはカラーテレビの発明もしています。

日本では、その年の12月に浜松高等工業学校（現在の静岡大学工学部）の高柳健次郎が、電子式テレビ受像機（ブラウン管式）を開発し、イロハの「イ」の映像を送受信しました。ここから高柳は「日本のテレビジョンの父」と呼ばれています。もう一つ、高柳に遡ること、2月に東北帝国大学（現在の東北大学工学部）の八木秀次と宇田新太郎によって、八木・宇田アンテナが考案されました。指向性短波アンテナと呼ばれ、現在では主にテレビ放送、ラジオのFM放送の受信用やアマチュア無線、業務無線の基地局用などに利用されています。つまり、百年前の発明開発が現在の私たちの生活に大きな影響をのこしているのです。

○アメリカ合衆国によるベネズエラ大統領の拘束

年明け1月4日に、信じがたいニュースが飛び込んできました。アメリカ時間1月3日に、アメリカ軍が南米ベネズエラに軍事作戦を強行し、80人もの死者を出してマドゥロ大統領夫妻を拘束、ニューヨークの拘置所に移送して、麻薬密売などの罪で裁判を受けさせるということです。これはベネズエラの主権を犯し、国家元首を国外に連れ出すといったことは国際法上あってはならないことと考えます。軍事攻撃が国連憲章などの禁じる「武力による現状変更の試み」であることは明らかで、国連のグテレス事務総長は「国際法の規範が尊重されていない」と表明しています。

マドゥロ大統領については、国際的にも様々な評価があり、昨年12月のノーベル平和賞受賞者は、ベネズエラのマリア＝コリーナ＝マチャドさんでした。受賞の理由は、『ベネズエラ国民の民主的権利を向上するための不断の努力と、独裁政権から民主主義への公正かつ平和的な移行を達成するための闘争に対して』でした。彼女はマドゥロ政権に対して民主化要求をして、ベネズエラ政府からは、国外に出ることを制限されおり、密出国したのですが、ノーベル平和賞の授賞式に間に合いませんでした。

アメリカのトランプ大統領は、マドゥロ大統領を拘束して、しばらくはベネズエラの国家の運営はアメリカが中心となって行うとしています。しかし、このことはベネズエラの国の人々が解決すべきことであって、他の国が介入すべきことではありません。このことが国際社会において今後こういった結果をもたらすのか、日本はじめ多くの国々が対応を迷っているようで、この先の展開が見えない状況です。

○新年の心構え

吉田松陰の言葉に、

学問をする眼目（目的・ねらい）は、自己を磨き、自己を確立することにある。

学問とは、人間はいかに生きていくべきかを学ぶものだ。

一つ善いことをすれば、その善は自分のものとなる。

一つ有益なものを得れば、それは自分のものとなる。

一日努力すれば、一日の効果が得られる。

一年努力すれば、一年の効果がある。

もう一つ、戦前の旧制高校生（現在でいえば大学生）たちの愛読書の一つに阿部次郎の「三太郎の日記」というのがあります。その中の一節に、

「汝を高むるものは、ただ汝自身の中にあり」

という言葉があります。自分自身を高める、向上させるためには、学校での学習を踏まえて、自分で努力することが大切だということです。皆さんにはそれぞれこれからの目標があると思います。その目標に向けて、自分自身で努力することが必要です。

もしまだ目標がないならば、それを進級する前、この3学期に見つけてください。目標がある人は、その目標を達成のための手段は何かを考えて行動できるようにしましょう。努力は結果を裏切らない。地道な努力が実を結びます。吉田松陰の言葉と合わせて、自分自身を高めるよう努力をしましょう。

新年度の始まりの気概、意気込みとしてのお話をしました。